

サンゴってどんな生き物？

＜サンゴ（造礁サンゴ）のおもな特徴＞

- 刺胞動物に属すイソギンチャクに近い生き物
- たくさんのポリプからなる群体をつくる
- 硬い骨（骨格）を持つ
- 岩などに固着して生活する
- 体内に褐虫藻（植物プランクトン）を共生させている



体内に褐虫藻を持つというのは造礁サンゴの大きな特徴。褐虫藻が光合成によりつくり出した栄養をもらって生きているサンゴは、おもに太陽の光が十分に届く、浅くてあたたかい海にすんでいます。

● サンゴの産卵と成長



● エンタクミドリイシの産卵



● プラヌラ幼生と生後1年の幼サンゴ（直径1cm）

多くのサンゴは夏の夜に産卵します。同じ種の産卵は同調して行われることが多く、大量の卵と精子が短時間に集中して放出されます。受精した卵はやがてプラヌラ幼生になり、数日間海を漂います。岩の表面などに着底したプラヌラはやがてポリプに変態します。そしてどんどんポリプの数を増やしながらかつて大きな群体へと成長していきま

ははじめは1mmにも満たなかった一つのポリプが直径数mを超えるような大きな群体に成長するにはとても長い時間がかかります。

● 海の豊かさを支えるサンゴの森



サンゴは美しい海中景観をつくり出し、私たちの眼を楽ませてもらえるだけでなく、多くの生き物に餌や住みかを提供し、生き物の多様性や海の豊かさを支える重要な役割を果たしています。サンゴは森の木々のような大切な存在なのです。

竜串サンゴ図鑑 竜串の海を彩るサンゴたち

日本に見られるサンゴ（造礁サンゴ類）は300種類以上。それぞれが特徴的な形と模様を持ち、豊かな色彩で海底に彩りを添えています。ここでは竜串で確認されている約80種の造礁サンゴ類（イシサンゴ類）の中から、代表的なものをいくつか紹介します。あなたのお気に入りのサンゴはどれですか？



クシハダミドリイシ

代表的なテーブル状のミドリイシ。竜串湾でもっとも多く見られるサンゴの一つ。浅い岩礁域に大きな群落をつくりま



シコロサンゴ

四国を代表するサンゴの一つ。内湾に多く、砂地にも生えています。見残し湾には県の天然記念物に指定されている巨大群落があります。



スリバチサンゴの仲間

すり鉢のような形をしたサンゴで、比較的水深が深く、濁りのある場所にも生えています。



キクメイシの仲間

被覆状、または塊状のサンゴで竜串湾にも様々な種類があります。ポリプが大きく菊目模様に見えるのが特徴です。



サンゴのかたち



かたまり状



ひふく状



葉状



テーブル状



えだ状



エンタクミドリイシ

クシハダミドリイシよりもがっしりした感じのテーブルサンゴ。比較的波あたりの強い場所にも見られ、大群落をつくりま



スギノキミドリイシ

砂地に多くみられる枝状のミドリイシ。湾内にも海底を覆い尽くすように大群落が広がっている場所があります。



ショウガサンゴ

ショウガのようなかたちをしたサンゴ。十分に光の届く浅い場所に多くみられます。卵ではなく幼生を産みます。



ハマサンゴの仲間

ポリプが小さく岩の塊のように見える塊状のサンゴ。直径数メートルを超える大きな群体に成長することがあります。



ハナガササンゴの仲間

塊状のサンゴですが、層間でもポリプを長くのばしているため、まるでイソギンチャクのように見えます。

